

きぬむすめ栽培のすすめ

晴れの国の特A米
「きぬむすめ」の栽培を広げましょう！！

4年連続
特A!!
☆☆☆☆

「きぬむすめ」は、食味の最高ランク「特A」を4年連続（H28～）で取得し、岡山を代表する美味しいお米として、家庭用、業務用を中心に需要が高まっています。

きぬむすめ 栽培の魅力

- 倒れにくく作りやすい！コシヒカリ並の極良食味で食べて美味しい！
- 実需者、消費者の評価が高く、安定した販売が望めます。
- 収量が多く、玄米の外観品質が優れ、一等米比率が高いので、収入の増加につながります。
- 早生品種との作期分散が可能となり、経営規模の拡大が図れます。

どんな 品種？

- 平成3年九州沖縄農業研究センター育成。平成26年岡山県奨励品種に選定
- 年平均気温14.5℃以下の県中部から北部（標高300m以上の高冷地を除く）が栽培適地です。
- 県中北部では5月中旬から6月上旬田植え、10月上旬収穫の中生品種です。
- 草丈はコシヒカリより低く、倒伏しにくく栽培しやすい品種です。
- 収量が高く、外観品質が優れています。

きぬむすめの来歴

キヌヒカリ

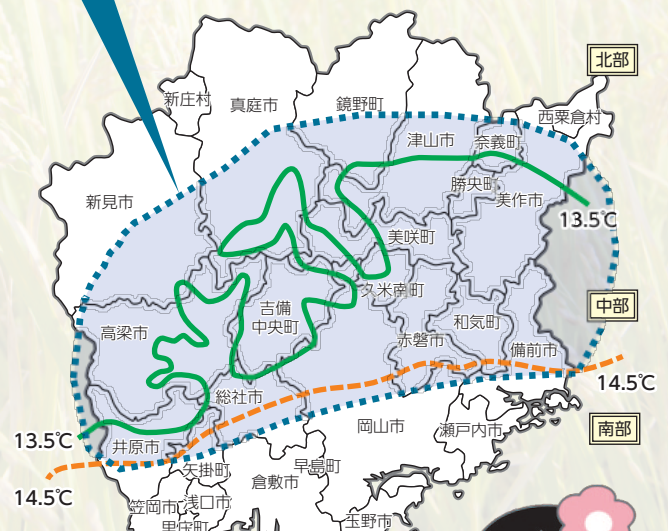
愛知92号
(祭り晴)

きぬむすめ



下：きぬむすめ、上：ヒノヒカリ

栽培適地



きぬむすめ栽培のポイント

「きぬむすめ」は良食味が長所です。JA等の食味計を利用し、**タンパク含有率7.0%以下**を目標に、食味の向上を図りましょう。

point 1 栽培地域と移植時期

- ◎ 県の中部から北部（高冷地を除く）での栽培が適しています。
- ◎ 移植時期は、5月中旬から6月上旬に田植えを行いましょう。
- ◎ 坪あたり60株植えを基準とします。



point 2 土づくり、施肥

- ◎ 施肥は、食味に大きく影響します。多肥栽培や遅い時期の穂肥はタンパク含量が増加し、食味が低下します。
☆ 施肥量は、地域の栽培暦等を参考にしてください。
- ◎ ケイ酸や苦土が不足すると食味が低下するので、土づくりを励行しましょう。

point 3 適期収穫と乾燥調製

- ◎ 刈り遅れを避け、適期収穫に努めましょう。
- ◎ 水分14.5%を下回らないように適切な乾燥と乾燥後の保存を徹底しましょう。

■ 岡山県におけるきぬむすめの栽培面積の推移

年産	H26	H27	H28	H29	H30	R元
栽培面積	1,910	2,300	2,600	2,900	3,400	3,860

■ きぬむすめの市町村別栽培面積（上位5市町、令和元年産）

市町村	津山市	岡山市	赤磐市	真庭市	美咲町
栽培面積	550	450	444	313	245

（単位：ヘクタール、県農産課推計）

お問い合わせ

岡山県地域稲作戦略推進会議（事務局：岡山県農林水産部農産課）

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6 TEL 086-226-7424

岡山米ホームページ
晴れの国岡山米Facebook

<https://www.pref.okayama.jp/page/detail-16018.html>
<https://www.facebook.com/okayamarice>